

仏教企画通信

発行日 | 平成30年1月1日

50

発行所 | 有限会社 仏教企画
〒252-0113
神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5
Tel.042-703-8641
Fax.042-783-0989
発行人 | 有限会社 仏教企画代表 藤木隆宣
Email | fujiki@water.ocn.ne.jp

偶感 あれこれ

6

懐かしい「歌詞」の思い出

佐々木宏幹
駒澤大学名誉教授

「歌詞」という語にはいろいろな意味がある。「和歌に用いることば、歌語、うたうことば」を指すとともに、「歌謡曲または歌曲歌劇などの歌の文句」などを意味するからである。「人生いろいろ、歌もいろいろ」である。そして人はそれぞれ置かれ与えられた場と時において、自分を励まし、元気づけ、慰め、悲しみ、省みるときに、いろいろな歌を口遊む。すこし大袈裟に言えば、人は歌によって「人生とは何か」を学び感じ考えるのである。歌が多種多様な理由であろう。

自分のことだけではなく他人を思いやる心や感性は、幼少のときに学び口遊んだ歌によって育まれるところ大なのではなからうか。たとえば「鳩」などその一つであろう。

- 一 ぼっぼっぼ 鳩ぼっぼ
豆がほしいか
そらやるぞ
みんなで仲良く
食べに來い
- 二 ぼっぼっぼ 鳩ぼっぼ
豆がうまいか
食べたなら
一度にそろって
飛んで行け

明治四四年(一九〇八)につくられたこの歌は小学生の頃に友だちとよく歌ったと記憶するが、今の小学生は知っているであろうか。この歌には鳩に物を「遣る」と「仲良く」と「そろって」が書きこまれているが、いずれも人間の社会生活に欠かせない徳目である。この三つが揃って行われていけば、小は喧嘩、大は戦争などの争い事は生じつこなしではないか。五く六歳の頃よく歌ったのは「夕焼小焼」であった。

- 一 夕焼小焼で
日が暮れて
山のお寺の 鐘がなる
お手々つないで
皆かえろ
鳥と一緒に
帰りましょう
子供が帰った
後からは
円い大きな お月さま
小鳥が夢を 見る頃は
空にはきらきら
金の星
- 二 この歌がつくられたのは大正一二年(一九二三)である。私が育ったお寺は高台にあり、友だちの家(多くは農家)は坂の下にあつたので、夕暮れにゴーンとお寺の鐘が鳴ると、大人たちに「さあ帰んなさい。またあした」と急ぎ立てられて渋谷坂を登って帰ったものである。「お寺の鐘」、「鳥と一緒に」、「お月さま」、「小鳥の夢」などの語句は、人(子供)と自然の一体感をみごとに謳いあげている。
私が住んでいるところは横浜市の在であるが、少し前ま

では朝に夕にお寺の梵鐘の音を耳にしたのに、最近では聞こえなくなつた。都市では朝夕の梵鐘の音がうるさいから撞くのをやめて欲しいとの声があがっているという。そういう人たちにはぜひミレールの「晩鐘」の絵を眺めてほしい。老人の戯言と一蹴されそうではあるが……。

「故郷」の歌

故郷は「古里」とも書く。「ふるさと」は古くなり荒れはてた土地を意味するとしても「自分の生まれた土地」、「かつて住んだことのある土地」。また、なじみ深い土地を指す語である。かつて地方に生まれ住んでいたが、仕事を求めて都市に移住したという人びとは少なくないだろう。そういう人びとにとって故郷は限りなく懐かしいところであるはずである。故郷についての歌が多いのはそのためであろう。

- 一 幾年ふるさと
来てみれば
咲く花鳴く鳥
そよぐ風
門辺の小川の
ささやきも
なれに昔に
変らねど
あれたる我家に
住む人絶えてなく
昔を語るか そよぐ風
昔をうつすか
澄める水
朝夕かたみに
手をとりにて
- 二



松本司写真詩集「天上を翔る川」渡辺出版 より

遊びし友人
いまいずこ
さびしき故郷や
さびしき我家や

この歌は明治四〇年(一九〇七)発行の『中等教育唱歌集』に掲載された。明治の末にはすでに故郷を離れて、多分都市や遠隔の地に住んでいた人が少なくなつたことを示す歌であろうか。故郷を詠んだもので忘れ難いのは詩人作家の室生犀星のものである。ふるさととは遠きにおいて

思ふもの
そして悲しくうたふもの
よしやうらぶれて異土の
乞食となるとても
帰るところにあるまじや
ひとり都のゆふぐれに
ふるさとおもひ涙ぐむ
そのころもて
遠きみやこに帰へらばや
遠きみやこに帰へらばや
この歌は大正七年(一九一八)に詠まれた(『抒情小曲集』)。犀星は石川県金沢の人だが、当時の金沢の人にとって、東

1 住職の意識、やる気がお寺をかえる

正木 先年、ある日蓮宗のお坊さんに頼まれて、法華経の勉強会を始めました。その方はお坊さんたちに勉強会に来てほしいとのこと。ところが、お坊さんがあまり来ないで、檀信徒の方が来るようになってしまいました。最初はお坊さん半分、在家半分でも十五人から二十人ぐらい来ていたのですが、今はお坊さんが五人で、在家が十人から十五人ということ、話が逆になってしまったのです。日蓮宗のお坊さんだったら法華経を勉強しなければいけないはずなのに、勉強しないんだと憤慨してらっしゃるのですが、どうしてこういうことが起こるのか、ということですね。

問題は、

折野 同じようなことを実はつい今年の二月ですか、鎌倉の建長寺さんが中心になっておやりになっている鎌倉禅研究会というのがあります。私、そこでお話をさせていただいたんですけども、それをまとめてらっしゃる前の臨済宗大本山建長寺の宗務総長をされた高井さんが、この研究会は禅寺の住職とか後継者に出席してもらって、みんなで勉強しましょうって始めたんですけど、今、僧侶は五、六人しかおらず、七十人以上来られているんですけど、みんな在家の方なんです。

折野 高井さんのお寺、宗禅寺さんではものすごく周りの地域の人を集まってるらしい

にあった村社八幡神社のお祭りは格別に楽しいときであった。お祭りは稲刈りが間近な朝夕ひんやりと感じる頃に行われた。小学校の二、三年生頃は日中戦争真っ只中であつたから、大人たちは八幡神社に出征兵士の「武運長久」や「無事帰還」を祈願した。とにかく大勢の人が集まり、参道の両側には屋台や露店が立ち並んだ。忘れられないのは味噌おでんで、串刺しの蒟蒻を煮込んで甘い味噌を付けたものであった。もちろん酒を売る屋台もあったので、大人たちは昼日中から酔っ払い、喧嘩をする人もいた。小学校で教えていた女の先生が屋台の横で「芋の子汁のホヤホヤ」と大声で叫んでいたのは驚いた。そのときに友だちと唄ったのが「村祭」である。

一 村の鎮守の神様の
今日ほめでたい御祭日
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
朝から聞こえる笛太鼓
今年も豊年満作で
二 村は総出の大祭
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
夜まで賑わう宮の森
治まる御代に神様の
めぐみ仰ぐや村祭り
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
聞いても心が

にあって村社八幡神社のお祭りは格別に楽しいときであった。お祭りは稲刈りが間近な朝夕ひんやりと感じる頃に行われた。小学校の二、三年生頃は日中戦争真っ只中であつたから、大人たちは八幡神社に出征兵士の「武運長久」や「無事帰還」を祈願した。とにかく大勢の人が集まり、参道の両側には屋台や露店が立ち並んだ。忘れられないのは味噌おでんで、串刺しの蒟蒻を煮込んで甘い味噌を付けたものであった。もちろん酒を売る屋台もあったので、大人たちは昼日中から酔っ払い、喧嘩をする人もいた。小学校で教えていた女の先生が屋台の横で「芋の子汁のホヤホヤ」と大声で叫んでいたのは驚いた。そのときに友だちと唄ったのが「村祭」である。

一 村の鎮守の神様の
今日ほめでたい御祭日
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
朝から聞こえる笛太鼓
今年も豊年満作で
二 村は総出の大祭
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
夜まで賑わう宮の森
治まる御代に神様の
めぐみ仰ぐや村祭り
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
聞いても心が

にあって村社八幡神社のお祭りは格別に楽しいときであった。お祭りは稲刈りが間近な朝夕ひんやりと感じる頃に行われた。小学校の二、三年生頃は日中戦争真っ只中であつたから、大人たちは八幡神社に出征兵士の「武運長久」や「無事帰還」を祈願した。とにかく大勢の人が集まり、参道の両側には屋台や露店が立ち並んだ。忘れられないのは味噌おでんで、串刺しの蒟蒻を煮込んで甘い味噌を付けたものであった。もちろん酒を売る屋台もあったので、大人たちは昼日中から酔っ払い、喧嘩をする人もいた。小学校で教えていた女の先生が屋台の横で「芋の子汁のホヤホヤ」と大声で叫んでいたのは驚いた。そのときに友だちと唄ったのが「村祭」である。

一 村の鎮守の神様の
今日ほめでたい御祭日
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
朝から聞こえる笛太鼓
今年も豊年満作で
二 村は総出の大祭
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
夜まで賑わう宮の森
治まる御代に神様の
めぐみ仰ぐや村祭り
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
聞いても心が

にあって村社八幡神社のお祭りは格別に楽しいときであった。お祭りは稲刈りが間近な朝夕ひんやりと感じる頃に行われた。小学校の二、三年生頃は日中戦争真っ只中であつたから、大人たちは八幡神社に出征兵士の「武運長久」や「無事帰還」を祈願した。とにかく大勢の人が集まり、参道の両側には屋台や露店が立ち並んだ。忘れられないのは味噌おでんで、串刺しの蒟蒻を煮込んで甘い味噌を付けたものであった。もちろん酒を売る屋台もあったので、大人たちは昼日中から酔っ払い、喧嘩をする人もいた。小学校で教えていた女の先生が屋台の横で「芋の子汁のホヤホヤ」と大声で叫んでいたのは驚いた。そのときに友だちと唄ったのが「村祭」である。

一 村の鎮守の神様の
今日ほめでたい御祭日
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
朝から聞こえる笛太鼓
今年も豊年満作で
二 村は総出の大祭
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
夜まで賑わう宮の森
治まる御代に神様の
めぐみ仰ぐや村祭り
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
聞いても心が

にあって村社八幡神社のお祭りは格別に楽しいときであった。お祭りは稲刈りが間近な朝夕ひんやりと感じる頃に行われた。小学校の二、三年生頃は日中戦争真っ只中であつたから、大人たちは八幡神社に出征兵士の「武運長久」や「無事帰還」を祈願した。とにかく大勢の人が集まり、参道の両側には屋台や露店が立ち並んだ。忘れられないのは味噌おでんで、串刺しの蒟蒻を煮込んで甘い味噌を付けたものであった。もちろん酒を売る屋台もあったので、大人たちは昼日中から酔っ払い、喧嘩をする人もいた。小学校で教えていた女の先生が屋台の横で「芋の子汁のホヤホヤ」と大声で叫んでいたのは驚いた。そのときに友だちと唄ったのが「村祭」である。

一 村の鎮守の神様の
今日ほめでたい御祭日
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
朝から聞こえる笛太鼓
今年も豊年満作で
二 村は総出の大祭
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
夜まで賑わう宮の森
治まる御代に神様の
めぐみ仰ぐや村祭り
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
聞いても心が

にあって村社八幡神社のお祭りは格別に楽しいときであった。お祭りは稲刈りが間近な朝夕ひんやりと感じる頃に行われた。小学校の二、三年生頃は日中戦争真っ只中であつたから、大人たちは八幡神社に出征兵士の「武運長久」や「無事帰還」を祈願した。とにかく大勢の人が集まり、参道の両側には屋台や露店が立ち並んだ。忘れられないのは味噌おでんで、串刺しの蒟蒻を煮込んで甘い味噌を付けたものであった。もちろん酒を売る屋台もあったので、大人たちは昼日中から酔っ払い、喧嘩をする人もいた。小学校で教えていた女の先生が屋台の横で「芋の子汁のホヤホヤ」と大声で叫んでいたのは驚いた。そのときに友だちと唄ったのが「村祭」である。

一 村の鎮守の神様の
今日ほめでたい御祭日
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
朝から聞こえる笛太鼓
今年も豊年満作で
二 村は総出の大祭
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
夜まで賑わう宮の森
治まる御代に神様の
めぐみ仰ぐや村祭り
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
ドンドンヒヤララド
ン
ヒヤララ
聞いても心が



正木 梶

宗門の課題

持たないかではないかと思えます。僧侶に、今やっていること、あるいは社会がお寺なり僧侶に求めているものと、自分が今やろう、あるいはやっていることにどれだけの差があるのかという意識を持つことが持たないか。ここに私はこの問題の原点が一番強くあるのではないかと思っています。それを意識すれば、次におのずと行動力が出てくることになるはず。行動力と危機感って僕はセットだと思っています。

藤木 折野先生は建功寺という横浜の鶴見区にあるお寺のご住職でいらっしゃるんですけど、先生がいろいろな事を考

えたり、行動したりされるのは自分の経歴を振り返っていかですか。

折野 そうですね。まず、私五十年ぐらゐの歴史を申し上げますと、まず戦争まではお寺に寺領がたくさんあって、いわゆる年貢で食べていられたお寺だったんですね。それが、先代住職が兵隊に行つて捕虜になって、先代は戦中に選化されてしまいました。そうすると住職がいらない寺とあるので、先代が捕虜から帰つてくる前、みんな開放されてしまったんです。九九%なくなっているんですよ。そうすると、お寺が食べていけない状態になる。先代は住職をしながら今のNHKにアナウンサーやプロデューサーとしてお世話になり、何とかお寺を維持したわけですね、ずっと定年までNHKにおりまして、二足のわらじですね。戦後の一時期、境内と田んぼ、畑にならない急斜面地だけが解放にならずに残っていました。そうするとそこが境内ではなかったんで、宅地並みに税金がかかったんです。払えないんですよ。お寺の維持に先代の給料までつき込んで、これは何とかしなければいけないというのが私たちの取り組みの始まりです。それからお檀家さんのお年寄りの

方々に、戦前は周りのお寺とそんなに見劣りもなかったのに、今はこんなになつてしまったからあなたたちが頑張らなさいって、いつも頭を叩いて押されて言われました。こうやってやられて言われました。お年寄りに。結果的にそれが何とかしなければいけないという、強い原動力になりました。

藤木 原点ですね。

折野 なくなつてしまったものはしょうがないですから、どうやって知恵を使って工夫をして、もう一回盛り上げて、皆さんの気持ちに寄り添うようにお寺にするか、人が集まってきたりするようにお寺にするか、というのをずっと考えていました。今は除夜も含めて三が日だけでも五千人以上から六千人ぐらゐの方々が初詣に来られますし、除夜の鐘だけでも二千人以上は来られますからね。二時間しか門を開けないのですが、うわあつというふうで大勢の人々が門を叩いて来られます。

佐々木 その五千人まで増やしたというのは、宣伝によつてですか。

折野 いや、いや、ほとんど口コミですね。

佐々木 大したものですね。

折野 初めのころは自分たちでポスターも描いて、恥ずかしいですが、夜十一時過ぎに、電信柱に張りに行き、三が日が終わると自分たちではがしに行きました。それは五年ぐらいやりましたかね。

あと、何をやるにもお金が

ないものですから、地元のお店街を回つて、「すみません何かご協力いただけませんか」と。それを五年やりました。少しずつ、少しずつ、そして、お寺の皆さんも協力してくださった商店の方々がお寺に来てくださる。じゃあ和尚、もうちょっとこうやったらいいよ、ああやったらいいよ。シャケが残つたら取っておくからとか、それを福引に出すわけですね。これはほんの一例にすぎませんが、このようなことを積み重ねて行く形で、だんだん、だんだん、それが人から人へ伝わるようになって、そうすると不思議なもので、メディアもみんな乗っけてくださるんです。今は本当に何をやるにしても、みんなメディア側から問い合わせに来てくださつて助かります。

たとえば、一例として「花まつり」では、お寺としてはお手伝いしていただく方々には、お弁当を出すわけですが、すると出費が次第に大きくなっていきます。そこで、何か入ってくるものも考えなければいけないと思い、人形供養を花まつりの日に合わせて始めました。数年前からのことなんです。そして、その人形供養で少しずつお布施をいただいたもので皆さんへお弁当を配って行くというやり方で、今年が初めて、土砂降りの雨だったんですけど、それでも有り難いことに五百五十人もの人がお参りに来られました。

藤木 半端な数じゃないですね。すごい。

折野 そのときに、何が私の一番得意とするところかと考えてみました。それは私が教鞭をとつております多摩美術大学の学生たちに協力頼むことです。実は駒澤大学さんも頼んでいただきました。そんな形で駒澤女子からもおいでいただきました。人形劇をして頂きました。そのようなことから多摩美術のアフリカのジャンベという太鼓と踊りですね。それから、ベリ1ダンスとそれからワークショップ、そして駒澤大学の相撲部が子どもたちと一緒に相撲ごっこを行つてもらい、子どもたちの挑戦を受けながら相撲を教えたりもしていました。それから駒澤女子の生徒さん方にはパネルシアターをやつていただいで、非常に盛り上がりました。

あと、地元のご婦人の方のよさごいソローランですか。その花まつりのときに、お寺が単体で行っている行事ですからメディアはこういう特定の宗教行事ですと扱ってくれないのが一般的です。ですから「花まつり」の時も無理かなと思いつつも、試してみてもお正月の記事として扱ってくださるところへ、連絡をしてみましたところ、全部のメディアが扱ってくれました。

京は「遠い遠い都」であつたのだから。故郷を離れる際の抒情がある。貧しい故郷を離れ、東京や大阪などの大都市で刻苦勉強し、やがて古里に錦を飾るといふのが戦前の地方の人びとの夢であり希望であつた。このことは大正三年(一九一四)に高野辰之作詞の「故郷」によく表れている。

一 うさぎ追いかの山
小鮒つりかの川
夢はいまもめぐりて
忘れがたき故郷
いかにいます父母
恙なしや友がき
雨に風につけても
思ひぬさる故郷
三 ころろざしを果して
いつの日にか帰らん
山は青き故郷
水は清き故郷

私が記憶する限り昭和一〇年(一九三五)の頃、宮城県北部(現気仙沼市)の農村から東京や横浜に出稼ぎに出るといふことは、送る人たちにとってはそれこそ断腸の思いであつたろう。蒸気機関車に引かれる客車に乗って発つときには、家族はもとより多くの友人、知人が駅に集まり汽車が見えなくなるまで手を振り続けた。故郷を去るには「覚悟」を要したのである。

お祭りは子どもにとって年中行事のなかでもとくに待ち遠しい日であつた。お寺の子であつた私にとつても、近く

日本人は太陽を「お日さま」、月を「お月さま」と呼び尊崇してきた。とくに月が好きなよう、旧暦八月一日の夜の月は「仲秋の名月」と呼び、人びとは秋草のすすきを飾り、月見団子、芋、枝豆、栗などと神酒を供えて「お月さま」を拝んだ。月は月読尊(月夜の見尊)という神であり、記紀神話では伊弉諾尊の子で天照大神の弟とされ、「夜の食す国」を治めるとされる。日本人にとつて月は主要な神の一柱であり、詩情をかき立てる存在であつた。そのためか

日本人と月

この歌は「月」という名で、明治四三年(一九一〇)の作であり小学生に唄われた。

一 十五夜お月さん
御機嫌さん
婆やお暇
とりました
二 十五夜お月さん
妹は
田舎へ貰られて
ゆきました
三 十五夜お月さん
母さんに

も一度わたしは逢いたいな

この歌は野口雨情作本居長世作曲で、大正九年(一九二〇)に出た。時代的には、日露戦争に勝利したこの国が、西欧をモデルに近代化を進めようとしていた頃で、人びとの移動の烈しいときであつた。「人の別れ」の寂しさ悲しさを滲ませた内容である。子ども頃、お大人たちが歌っていたのが「証城寺の狸囃子」である。

証城寺の庭は
ツツ 月夜だ
みんな出て
おいおいおい
おいらの友達ア
ぼんぼこ ぼんの
ぼん
負けるな 負けるな
和尚さんに 負けるな
来い 来い 来い
来い 来い 来い

みんな出て 来い来い
来い
証城寺の萩は
ツツ 月夜に
花盛り
おいらは浮かれて
ぼんぼこ ぼんの
ぼん

「証城寺」は大正一三年(一九二四)、野口雨情作詞中山普平作曲で世に出た。私が育つたお寺では、小僧さんたちが月夜に唄つて聞かせてくれた。懐かしい思い出の歌である。最後に、曲はスコットランド民謡、大和田建樹作詞の「故郷の空」を記そう。

一 夕空はれて 秋風吹き
月かげ落ちて
鈴虫なく
おもえば遠し
故郷の空
ああわが父母
いかにおわす
すみゆく水に
秋萩 たれ
玉なす露は
すすきに満つ
おもえば似たり
故郷の野辺
ああわが兄弟
たれと遊ぶ

この歌が世に出たのは明治二一年(一八八八)である。今より一、二九年も前の歌である。おそらく東京に出て「遠い故郷」を唄んで作詞したのであろう。現在、故郷は交通機関の発達により、「遠くない地」になつてしまった。

「故郷」が近くなつた現代人に、この「歌の心」ははたして分かるかどうか？

も一度わたしは逢いたいな

この歌は野口雨情作本居長世作曲で、大正九年(一九二〇)に出た。時代的には、日露戦争に勝利したこの国が、西欧をモデルに近代化を進めようとしていた頃で、人びとの移動の烈しいときであつた。「人の別れ」の寂しさ悲しさを滲ませた内容である。子ども頃、お大人たちが歌っていたのが「証城寺の狸囃子」である。

証城寺の庭は
ツツ 月夜だ
みんな出て
おいおいおい
おいらの友達ア
ぼんぼこ ぼんの
ぼん
負けるな 負けるな
和尚さんに 負けるな
来い 来い 来い
来い 来い 来い



風流十二月 八月 石川豊雅画 (わらべうた 尾原昭夫氏所蔵)

大学院生と宗務庁の人たちと回って見たんですね。その結果はというと、岩手県と宮城県では、仙台だとか石巻だとか大きい都市はいいんです。気仙沼あたりでもそういうところは少ないのですが、栗駒の奥に入ったようなお寺に行きますと、ほとんど今、柘野老師がおっしゃったような状況が続いており、どうしているかというところ、ご住職が学校の先生をやったりしておられる。柘野 皆さん、そうです。

柘野 役場の就職に就いてみたり、学校の先生が役場かあるのは何かの会社にお勤めしたりして、お葬式が出たときだけ衣を着てやっています。これはどうなるんだらうと、そのとき思いました。二十年ぐらい前です。だから今、ご老師がおっしゃったみたいに相当増えてるんですね。柘野 増えてますね。それからもう一方で、都会だけではないで、寺離れが始まってますね。跡継ぎがあるにもかかわらず、檀家を抜けていくという動きです。これがどんどん抜けていくお寺と抜けていけないお寺、はっきり差が出てきてるんです。

柘野 お檀家さんが住職に付いていくお寺は抜けていかないですよ。簡単に言うくと、



柘野俊明

たり、渋谷で遊んだりした子が、二年間ぐらい永平寺、總持寺で修行してくると、姿勢から姿勢がすっかり変わってきますから。

柘野 変わりますね。
佐々木 本山の「人間改造力」はまだまだ相当なものだと思えました。

柘野 価値観まで変わって帰りますから。
佐々木 そうなんです。そこが大きいですね。今までは世俗価値だけで生きておったのが、それを乗り越えて向こう側についているものがあるんだというのを、肌で感じてくると、二年ぐらい行ってくる。柘野 変わりますね。恐らく、普通の社会に暮らしていきたくて、食べられたり自由にできるのが当たり前に思っているわけなんです。でも、その当たり前がすべて取り除かれますから、今いられることがありがたい、食べられることがありがたい、足伸ばせることがありがたい、こうなっていく。永平寺へ行って、二二年なり、永平寺へ行って、目過寮に入り、それから正式にいろんな役が与えられて修行します。仲間の中にいい先輩がいると、すっかりその人に魅せられて何

すから、いかに日ごろから密の関係を檀家さんも、地域の人とも築き上げていけるかというところは、これはお寺と僧侶にとっては大変な問題だと思えますね。重要な問題なんです。

3 人間がある限り 宗教文化は存在する
正木 妙光寺の小川住職が最近実践してらっしゃることをご紹介します。先年、お金持ちの檀徒のおじいちゃんが亡くなる時に、遺言で境内に建物一つ寄付してくれたそうです。注目すべきは、その建物の利用法です。まず、檀徒の方が亡くなると、できるだけ遺体を住職自身が引き取りに行き、ご遺族とご遺体を二日間、その建物で面倒見ます。その間の食べ物全部、妙光寺さんが用意します。そして二日間、通夜説教するのです。そうすると、信徒さんの場合、ほぼ百パーセントが檀徒になるそうです。初めてほんとうの仏教に触れ合っただ、とにかく丁寧に対処していただいたということ、みなさん感激して、ほぼすべて檀徒さんになるのだそうです。
佐々木 みんな無神論者になろうとしているわけではないんですね。やり方によっては。
正木 そうなんです。
佐々木 その話をもう少し、詰めてほしいんですが、科学が発達し、食べるに困らない、経済的にも充実するにいたると、宗教という人類とともに弱体化するという仮説は果た

もよかったそうです。「安穩廟」というかたちの永代供養墓をまだ誰も発想していません。それが時代の求めるところと合致したということ。要するに、何が求められているか。それをどういう形で提供するか。しかも、その場合にお寺だけではなくて、地域とどう連携していくか、が問題だということです。このままだと、お寺はもとより地域も没落する。そういう発想から始まったそうですから、危機意識を持つというのが非常に重要なのです。もしそこに問題があるとすれば、さきほど柘野さんが指摘になったとおり、大概のご住職が危機意識を持ってないわけ。これをどうするかこそ、喫緊の課題だと思います。

柘野 危機意識を持たなくても成り立ってしまうところが問題なんです。企業であれば、社会の要望、ニーズからすれば、ものをつくって提供していかねば、当然淘汰されますから。企業はつぶれていきます。お寺は今、お檀家さん制度に守られてますから、ずれていくにもかかわらず成り立ってしまうんです。ここに問題があるんです。でも、お檀家さん制度は非常に大事なことになる。大事で守っていくかなければいけないんです。そこがあるがゆえに危機意識を持たない僧侶が増えてしまっているという現状があります。

正木 そうなると、気がつくのが遅すぎ、気が付いてみた

で、それを唯物論ですばつと切ってしまうたら、それはおそろしく非人間的な話だと思います。

柘野 まさにそういうことですかね。
佐々木 やっぱそういうんです。私は人間が人間であるというこは、見えなくなるとい、ちゃんと尊ぶ心を持つてい、なくなったら動物と同じになるというふうを考えているんですがね。

柘野 まさに同感です。私も宗教、仏教も含めてなくなることはないと思います。人間がこの世にいる限りはあり続けると思います。

佐々木 そうなんです。人間がああ世とこの世であるとか、死者と生者とかがどういふに分けたときに、もう既に宗教世界はできているんですね。生きてる者だけという観念は成り立たないわけですから。死というものがあつてから、生というものがあつて人間というものがあつて、親を相手に置くとか、自然を向こうに置くとか人間というものが成り立つわけ。だから二項対立が全部いっていいことではないにしても、人間を超えた存在とか、自分の関係者であるとか、知り合いないとかが亡くなって全く無になつてしまつたつていうことを考えなさいっていうこと自体が、人間に反する教えじゃないかと思つていられるんです。私も親を亡くしてから八十

ら足元が危うくなつてしまつていて、もはや手の施しようがないという可能性があるかもしれないですね。

柘野 どんどんどん、お檀家さん制度は崩壊してきてますよ。
佐々木 私は今、お寺に住んでないから、文献やなんかで、あるいは新聞、雑誌で見ただけなんです。地方のお寺が崩壊しているというのは、一つは人口移動によるということもあるだろうし、核家族が非常に増えて跡継ぎがいらないということもあるんだらうけれども、曹洞宗でも相当出てるんですか。
柘野 曹洞宗が一番多いと思えますね。
佐々木 そうですか。
柘野 単純に人口の減ということで申し上げると、限界集落に存在するお寺の宗派の中で曹洞宗が一番多いんです。約四割あります。曹洞宗の寺院数の中の四割が限界集落にあるんです。ですから、限界集落ですからいつか人は亡くなって集落も消えていくと。でも、お寺は消えるわけじゃないです。この四割のお寺をどうしていくんだっていうことが大変な問題ですね。他の各宗派も平均すると三七％か三八％ぐらいです。もつとと言うならば、現在、独居世帯が増加しているということがあります。独居世帯って言うのは、独居者、或いはお連れ合いが亡くなられた方も含めて、三八％ぐらいです。宗務庁の調べで。今はおそらく、四〇％超すんではな

物なぜあれほど多く人間を引き付けられたのか。そこに問題を解く鍵が秘められていて、お水で洗って手合わせないで安心できないんです。これは、どうしてかかって説明しろって言われてもなかなか難しいところ、理屈をこねればこうだろう、ああだろうって言う、それこそ昔の言葉で言えば、親の恩を忘れないなんていう古い言葉になる。でもそう言うことではなくて、もつと情念レベルの何が働いてます。これが恐らく、私だけじゃなくて、他の人びともそうだと思います。が、死んだらおしまいだ。無や空に帰するんだ、仏教は空の教えだから死は当たり前だとなつたら、仏教自体が何かしくなっていく。そういう意味じゃないでしょう。空、無我って言うのは。

4 曹洞宗の僧侶として
柘野 宗教者(僧侶)は悩みごとであろうが、悲しみに浸つてるときであろうが、いかにその方の心に寄り添えるかっていうことだと思ふんですね。相手が僧侶からこういう言葉で聞いて私は少しほつとできたとか、安心できたつていうものを皆さん求めてるわけですね。
藤木 そうですね。寄り添うということ、今お話が出てきましたけど、ここが意味で一番大事じゃないかと思ふんです。
正木 これは反面教師の事例なんです。オウム真理教を率いていた麻原彰光という人

もよかつたそうです。「安穩廟」というかたちの永代供養墓をまだ誰も発想していません。それが時代の求めるところと合致したということ。要するに、何が求められているか。それをどういう形で提供するか。しかも、その場合にお寺だけではなくて、地域とどう連携していくか、が問題だということです。このままだと、お寺はもとより地域も没落する。そういう発想から始まったそうですから、危機意識を持つというのが非常に重要なのです。もしそこに問題があるとすれば、さきほど柘野さんが指摘になったとおり、大概のご住職が危機意識を持ってないわけ。これをどうするかこそ、喫緊の課題だと思います。

柘野 危機意識を持たなくても成り立ってしまうところが問題なんです。企業であれば、社会の要望、ニーズからすれば、ものをつくって提供していかねば、当然淘汰されますから。企業はつぶれていきます。お寺は今、お檀家さん制度に守られてますから、ずれていくにもかかわらず成り立ってしまうんです。ここに問題があるんです。でも、お檀家さん制度は非常に大事なことになる。大事で守っていくかなければいけないんです。そこがあるがゆえに危機意識を持たない僧侶が増えてしまっているという現状があります。

正木 そうなると、気がつくのが遅すぎ、気が付いてみた

で、それを唯物論ですばつと切ってしまうたら、それはおそろしく非人間的な話だと思います。

柘野 まさにそういうことですかね。
佐々木 やっぱそういうんです。私は人間が人間であるというこは、見えなくなるとい、ちゃんと尊ぶ心を持つてい、なくなったら動物と同じになるというふうを考えているんですがね。

柘野 まさに同感です。私も宗教、仏教も含めてなくなることはないと思います。人間がこの世にいる限りはあり続けると思います。

佐々木 そうなんです。人間がああ世とこの世であるとか、死者と生者とかがどういふに分けたときに、もう既に宗教世界はできているんですね。生きてる者だけという観念は成り立たないわけですから。死というものがあつてから、生というものがあつて人間というものがあつて、親を相手に置くとか、自然を向こうに置くとか人間というものが成り立つわけ。だから二項対立が全部いっていいことではないにしても、人間を超えた存在とか、自分の関係者であるとか、知り合いないとかが亡くなって全く無になつてしまつたつていうことを考えなさいっていうこと自体が、人間に反する教えじゃないかと思つていられるんです。私も親を亡くしてから八十

ら足元が危うくなつてしまつていて、もはや手の施しようがないという可能性があるかもしれないですね。

柘野 どんどんどん、お檀家さん制度は崩壊してきてますよ。
佐々木 私は今、お寺に住んでないから、文献やなんかで、あるいは新聞、雑誌で見ただけなんです。地方のお寺が崩壊しているというのは、一つは人口移動によるということもあるだろうし、核家族が非常に増えて跡継ぎがいらないということもあるんだらうけれども、曹洞宗でも相当出てるんですか。
柘野 曹洞宗が一番多いと思えますね。
佐々木 そうですか。
柘野 単純に人口の減ということで申し上げると、限界集落に存在するお寺の宗派の中で曹洞宗が一番多いんです。約四割あります。曹洞宗の寺院数の中の四割が限界集落にあるんです。ですから、限界集落ですからいつか人は亡くなって集落も消えていくと。でも、お寺は消えるわけじゃないです。この四割のお寺をどうしていくんだっていうことが大変な問題ですね。他の各宗派も平均すると三七％か三八％ぐらいです。もつとと言うならば、現在、独居世帯が増加しているということがあります。独居世帯って言うのは、独居者、或いはお連れ合いが亡くなられた方も含めて、三八％ぐらいです。宗務庁の調べで。今はおそらく、四〇％超すんではな

物なぜあれほど多く人間を引き付けられたのか。そこに問題を解く鍵が秘められていて、お水で洗って手合わせないで安心できないんです。これは、どうしてかかって説明しろって言われてもなかなか難しいところ、理屈をこねればこうだろう、ああだろうって言う、それこそ昔の言葉で言えば、親の恩を忘れないなんていう古い言葉になる。でもそう言うことではなくて、もつと情念レベルの何が働いてます。これが恐らく、私だけじゃなくて、他の人びともそうだと思います。が、死んだらおしまいだ。無や空に帰するんだ、仏教は空の教えだから死は当たり前だとなつたら、仏教自体が何かしくなっていく。そういう意味じゃないでしょう。空、無我って言うのは。

4 曹洞宗の僧侶として
柘野 宗教者(僧侶)は悩みごとであろうが、悲しみに浸つてるときであろうが、いかにその方の心に寄り添えるかっていうことだと思ふんですね。相手が僧侶からこういう言葉で聞いて私は少しほつとできたとか、安心できたつていうものを皆さん求めてるわけですね。
藤木 そうですね。寄り添うということ、今お話が出てきましたけど、ここが意味で一番大事じゃないかと思ふんです。
正木 これは反面教師の事例なんです。オウム真理教を率いていた麻原彰光という人

いでしようか。もう一方で、ご夫婦で暮らしても子どもさんがいらつしやらない方が、これはまだ数字が押さえられてないんです。これを足すと、きつと半分になるのではないと思つています。そうすると一世代後、即ち次の世代にこのお寺のお檀家さんも減らつていくことなんです。百軒あれば四十軒、千軒あれば四百軒減つちゃうと。
佐々木 そういうことですね。
柘野 そういうことです。もう一回世代が変わつたら大変です、という危機感が寺院全体として薄いような気がいたします。独身の人たちに宗教界、お寺側としてはどう手を差し伸べて救っていくのか。お寺がそういう人たちの要望にも応えていかなければいけない時代なのですが、跡継ぎのない人は駄目ですよとかつて言つてる、ここに大きな問題があると思ひますね。
藤木 そうですね。それを言っちゃいけないですね。今、求めてる人を受け入れてあげないといけないと思ひますね。
佐々木 二十年ぐらい前に檀信徒意識調査を行つて、結果の報告は宗務庁から立派な本になって出てます。私は坐長のようなことをやつておつて

物なぜあれほど多く人間を引き付けられたのか。そこに問題を解く鍵が秘められていて、お水で洗って手合わせないで安心できないんです。これは、どうしてかかって説明しろって言われてもなかなか難しいところ、理屈をこねればこうだろう、ああだろうって言う、それこそ昔の言葉で言えば、親の恩を忘れないなんていう古い言葉になる。でもそう言うことではなくて、もつと情念レベルの何が働いてます。これが恐らく、私だけじゃなくて、他の人びともそうだと思います。が、死んだらおしまいだ。無や空に帰するんだ、仏教は空の教えだから死は当たり前だとなつたら、仏教自体が何かしくなっていく。そういう意味じゃないでしょう。空、無我って言うのは。

全部出してくれたということ、今までの実績だったんですね。ありがたかったです。
佐々木 やっぱご住職の意識ですね。やる気ですね。
藤木 やる気だと思います。
正木 現実を見ると、うちの寺の経営さえ成り立っていないよ、ねって住職がとて多くて。
柘野 圧倒的に多いんです。佐々木 その原因は何だろうかと、いうことを私も考えているんですけどね。宗門はこういう言葉があります。「法系相統」といって、弟子と師匠が赤の他人同士でも、法で相統されて親子以上の人間関係になる。それに対して、「内係相統」は親子の血がつながつてることです。明治以前は法系相統が大部分だったのですが、廃仏毀釈から再編が行われたころから、曹洞宗でも住職の息子を跡取りにさせるというのが正当化してきた。そうすると、親子ですからどうしても、「おまえをたまたき伏せても本物の修行をさせてやる」と口にしながらかも、やっぱり親子ですから、特にお母さんが同情したりすると、息子がきちっとしないことが多いんです。どうやってそれを是正していくかというのは大きな課題ですね。
親子関係のいわゆる法系じゃない相統の子どもの法系に限りなく近づけるものには、どういう方法でやったらいいの。そのために、永平寺、總持寺があるという声がある。確かに両山はすごいと思ひます。駒澤大学で飲んだり食つ

たり、渋谷で遊んだりした子が、二年間ぐらい永平寺、總持寺で修行してくると、姿勢から姿勢がすっかり変わってきますから。
柘野 変わりますね。
佐々木 本山の「人間改造力」はまだまだ相当なものだと思ひました。
柘野 価値観まで変わって帰りますから。
佐々木 そうなんです。そこが大きいですね。今までは世俗価値だけで生きておったのが、それを乗り越えて向こう側についているものがあるんだというのを、肌で感じてくると、二年ぐらい行ってくる。柘野 変わりますね。恐らく、普通の社会に暮らしていきたくて、食べられたり自由にできるのが当たり前に思っているわけなんです。でも、その当たり前がすべて取り除かれますから、今いられることがありがたい、食べられることがありがたい、足伸ばせることがありがたい、こうなっていく。永平寺へ行って、二二年なり、永平寺へ行って、目過寮に入り、それから正式にいろんな役が与えられて修行します。仲間の中にいい先輩がいると、すっかりその人に魅せられて何

もよかつたそうです。「安穩廟」というかたちの永代供養墓をまだ誰も発想していません。それが時代の求めるところと合致したということ。要するに、何が求められているか。それをどういう形で提供するか。しかも、その場合にお寺だけではなくて、地域とどう連携していくか、が問題だということです。このままだと、お寺はもとより地域も没落する。そういう発想から始まったそうですから、危機意識を持つというのが非常に重要なのです。もしそこに問題があるとすれば、さきほど柘野さんが指摘になったとおり、大概のご住職が危機意識を持ってないわけ。これをどうするかこそ、喫緊の課題だと思います。

柘野 危機意識を持たなくても成り立ってしまうところが問題なんです。企業であれば、社会の要望、ニーズからすれば、ものをつくって提供していかねば、当然淘汰されますから。企業はつぶれていきます。お寺は今、お檀家さん制度に守られてますから、ずれていくにもかかわらず成り立ってしまうんです。ここに問題があるんです。でも、お檀家さん制度は非常に大事なことになる。大事で守っていくかなければいけないんです。そこがあるがゆえに危機意識を持たない僧侶が増えてしまっているという現状があります。

正木 そうなると、気がつくのが遅すぎ、気が付いてみた

で、それを唯物論ですばつと切ってしまうたら、それはおそろしく非人間的な話だと思います。

柘野 まさにそういうことですかね。
佐々木 やっぱそういうんです。私は人間が人間であるというこは、見えなくなるとい、ちゃんと尊ぶ心を持つてい、なくなったら動物と同じになるというふうを考えているんですがね。

柘野 まさに同感です。私も宗教、仏教も含めてなくなることはないと思います。人間がこの世にいる限りはあり続けると思います。

佐々木 そうなんです。人間がああ世とこの世であるとか、死者と生者とかがどういふに分けたときに、もう既に宗教世界はできているんですね。生きてる者だけという観念は成り立たないわけですから。死というものがあつてから、生というものがあつて人間というものがあつて、親を相手に置くとか、自然を向こうに置くとか人間というものが成り立つわけ。だから二項対立が全部いっていいことではないにしても、人間を超えた存在とか、自分の関係者であるとか、知り合いないとかが亡くなって全く無になつてしまつたつていうことを考えなさいっていうこと自体が、人間に反する教えじゃないかと思つていられるんです。私も親を亡くしてから八十

ら足元が危うくなつてしまつていて、もはや手の施しようがないという可能性があるかもしれないですね。

柘野 どんどんどん、お檀家さん制度は崩壊してきてますよ。
佐々木 私は今、お寺に住んでないから、文献やなんかで、あるいは新聞、雑誌で見ただけなんです。地方のお寺が崩壊しているというのは、一つは人口移動によるということもあるだろうし、核家族が非常に増えて跡継ぎがいらないということもあるんだらうけれども、曹洞宗でも相当出てるんですか。
柘野 曹洞宗が一番多いと思えますね。
佐々木 そうですか。
柘野 単純に人口の減ということで申し上げると、限界集落に存在するお寺の宗派の中で曹洞宗が一番多いんです。約四割あります。曹洞宗の寺院数の中の四割が限界集落にあるんです。ですから、限界集落ですからいつか人は亡くなって集落も消えていくと。でも、お寺は消えるわけじゃないです。この四割のお寺をどうしていくんだっていうことが大変な問題ですね。他の各宗派も平均すると三七％か三八％ぐらいです。もつとと言うならば、現在、独居世帯が増加しているということがあります。独居世帯って言うのは、独居者、或いはお連れ合いが亡くなられた方も含めて、三八％ぐらいです。宗務庁の調べで。今はおそらく、四〇％超すんではな

物なぜあれほど多く人間を引き付けられたのか。そこに問題を解く鍵が秘められていて、お水で洗って手合わせないで安心できないんです。これは、どうしてかかって説明しろって言われてもなかなか難しいところ、理屈をこねればこうだろう、ああだろうって言う、それこそ昔の言葉で言えば、親の恩を忘れないなんていう古い言葉になる。でもそう言うことではなくて、もつと情念レベルの何が働いてます。これが恐らく、私だけじゃなくて、他の人びともそうだと思います。が、死んだらおしまいだ。無や空に帰するんだ、仏教は空の教えだから死は当たり前だとなつたら、仏教自体が何かしくなっていく。そういう意味じゃないでしょう。空、無我って言うのは。

4 曹洞宗の僧侶として
柘野 宗教者(僧侶)は悩みごとであろうが、悲しみに浸つてるときであろうが、いかにその方の心に寄り添えるかっていうことだと思ふんですね。相手が僧侶からこういう言葉で聞いて私は少しほつとできたとか、安心できたつていうものを皆さん求めてるわけですね。
藤木 そうですね。寄り添うということ、今お話が出てきましたけど、ここが意味で一番大事じゃないかと思ふんです。
正木 これは反面教師の事例なんです。オウム真理教を率いていた麻原彰光という人

いでしようか。もう一方で、ご夫婦で暮らしても子どもさんがいらつしやらない方が、これはまだ数字が押さえられてないんです。これを足すと、きつと半分になるのではないと思つています。そうすると一世代後、即ち次の世代にこのお寺のお檀家さんも減らつていくことなんです。百軒あれば四十軒、千軒あれば四百軒減つちゃうと。
佐々木 そういうことですね。
柘野 そういうことです。もう一回世代が変わつたら大変です、という危機感が寺院全体として薄いような気がいたします。独身の人たちに宗教界、お寺側としてはどう手を差し伸べて救っていくのか。お寺がそういう人たちの要望にも応えていかなければいけない時代なのですが、跡継ぎのない人は駄目ですよとかつて言つてる、ここに大きな問題があると思ひますね。
藤木 そうですね。それを言っちゃいけないですね。今、求めてる人を受け入れてあげないといけないと思ひますね。
佐々木 二十年ぐらい前に檀信徒意識調査を行つて、結果の報告は宗務庁から立派な本になって出てます。私は坐長のようなことをやつておつて



佐々木宏幹

藤木氏(経営譲渡反対勢力)は、経営譲渡を文科省に承認させないための方法について参加者に意見を求めた。

- (1) 苦小牧市が市有地15ヘクタールのうち校舎敷地として10ヘクタールを無償譲渡、5ヘクタールを無償貸与。設立資金95億円のうち総額53億円を市などが負担の公私協力の大学。

- (2) 2013年4月に設立。京都看護大学、北海道栄高校を運営する。中国とのパイプも強く、中国人の受け入れ実績も多数。理事には中国共産党員が含まれる。

今後の対応

議論の中で、苦小牧駒澤大学を存続させることは道義的にも、経営的にも必要であることを確認し、まずは文科省に承認を否決させるために、対策を講じる。具体的には、以下の通りである。

- 文科省に現在の訴訟、現状について認識していただく。大学設置委員への情報共有や認可拒否の嘆願書の提出を探る
- 理事会決定事項についての棄損を見つけて新たな訴訟を行う。
- 苦小牧市への説得。市民の意見を聞き、例えば市議による反対意見表明を模索。(市議への働きかけ)
- 苦小牧駒澤大学の新たな戦略策定(第二部の議論)。

第二部：駒大の運営改善について、新たな学部創設も含めての駒大運営について

仏教系大学を中心とした大学の経営戦略比較と事例確認

・立正大学

品川と熊谷(埼玉)との2キャンパス
心理学、臨床心理系に特徴のある教授陣を配し、マスコミ等の露出多い。
日蓮宗大学としては最大規模。

・東洋大学

白山と赤羽台、大手町サテライト(以上東京)、朝霞、川越(以上埼玉)、板倉(群馬)と多キャンパス。
仏教系大学ではないが、東洋哲学、西洋哲学の思想教育の影響もあり仏教を学ぶこともできる。
中堅クラスの大学としては、スポーツから社会貢献、産学連携など多岐にカバーする成功モデル校？

・龍谷大学

京都にある浄土真宗(西本願寺)仏教学科をもつマンモス校。
農作物の生産、加工、流通、消費における「食の循環」を通して新たな農業を学ぶ「農学部」を新設。
深草キャンパスでは、グローバルに学ぶ2学科体制の「国際学部」が注目されている。その他、准教授、深尾氏が設立した「プラスソーシヤルインベストメント(株)」には、

吉澤氏も取締役として就任。独自性のある柔軟な教育環境も注目されている。地域密着型の授業や社会的投資への運用枠(7億2千万円)の設定等も実施。

・大正大学

真言宗(4派)により設立された豊島区にある小規模大学。教授陣は、社会現場で活躍したプロが多く、社会での実践を意識したカリキュラムで注目。
地域創生学部では、各自治体、NPO等との連携による産学フィールドワークなど実践の場作りも積極的におこなう。

・駒澤大学

世田谷の一等地に1キャンパス。立地は最大の魅力となっている。
教授会が強い。給料がいい。

今後の大学運営について

(現状考察)

- 大学間競争の中で駒澤大学のような中位校は埋没する。
- 大学のほとんどが就職ありきの募集になっている。
- 大学のルートを見つめ直す。
- 大学変革のスピード感を認識しておく。
- ソーシャルビジネス、エシカルビジネス、循環ビジネス等に注目。

出てくる。そのために既存の仕組み、体制を維持しながら、反対勢力も納得できる一点突破の戦略が必要。それらを考慮して、短期計画、中長期計画の経営再建案を考える。

・仏教の単位制大学へ(仏教のリベラルアーツ教育を実施していくべき)

- 地域にある真の歴史を語る人をつくる。
- 地域のコンテンツをきちんとまとめる。
- 地域とのつながりを通じて命の大切さを伝える
- 地域と寺の関係性をまともにならねばならない。
- 人材交流を踏まえたカリキュラム作り。
- 全学共通プログラム(に限らず)として、世田谷と苦小牧の学生を流動させることでエクステンジブプログラムを具現化などにより、より即効性が高く、シームレスに導入が可能？
- 経済学部、経営学部、文学部などはごく一般的な授業体制が組まれており、駒澤大学の特徴が打ち出されていない。各学部で「倫理」「循環」等にかかわる教員を動員、授業を開講する。各学部の「クラウン・ジュエル(象徴的授業)」と位置づけ、パブリサイズする。一方、既存の各学部の授業群はいじらずに置く。これにより、オンラインドックスな授業体制を維持しつつ、仏教というルーツを踏まえた駒澤大学の特徴出しが可能となる。

手まり学園

寄附者御芳名
H29.8.1~10.1

所在地	寺院名(個人名)	金額
神奈川県	青木義次(48)	6,000
東京都	小川匡夫	50,000
東京都	砂金智佐(84)	3,000
神奈川県	青木義次(49)	6,000
三重県	光明寺	10,000
東京都	砂金智佐(85)	3,000
神奈川県	青木義次(50)	6,000
合計		84,000

仏教企画発行の刊行物

(*部数により割引があります) すべて税別価格です

『修証義』解説 丸山劫外著	1,400円*
『うたい継ごうよ、子守唄』 長田暁二西 館好子共著	1,200円*
『まんが問答一期一話』 文 平和宏昭まんが 垣内敬遠	1,200円*
『道元禅より見たる般若心経解説』 長井龍遺著	2,200円
『葬送のしおり』 長井龍遺著	30円
修証義読本『生老病死』 須田道輝著	500円*
『曹洞宗檀信徒経典』 須田道輝解説	300円*
曹洞宗檀信徒必読『供養のすべて』 霊元丈法著	140円*
曹洞宗檀信徒必読『葬儀のすべて』 霊元丈法著	150円*

*『仏教企画通信』を10部以上購読希望の方は一部100円で頒布致します。同封はがきの空欄にその旨をお書きください。(消費税、送料別)

曹洞禅グラフ

発行日	
春 彼岸号	2月20日
夏 お盆号	5月30日
秋 彼岸号	8月30日
冬 正月号	10月30日
1部 200円	
9部以下	200円
10部以上	150円に割引
20部以上	135円に割引
50部以上	130円に割引
100部以上	120円に割引
200部以上	110円に割引
300部以上	100円に割引
500部以上	90円に割引

お申込み

〒252-0113 神奈川県相模原市緑区谷ヶ原2-9-5-5
TEL: 042-703-8641 FAX: 042-783-0989 Email: fujiki@water.ocn.ne.jp

仏教企画

※ご寺院名後の番号(3桁もしくは4桁)がお客番号(コード)になります。お申込みは ①ご寺院名 ②お客番号 ③電話番号でも可能です。